

最近の症例から (21) —脂肪腫—

田中 仁, 安田浩一

松本歯科大学 口腔外科学第2講座 (主任 山岡 稔 教授)

患者 : 72歳, 男性.

初診 : 平成7年3月27日.

主訴 : 右側頬粘膜部の腫瘤.

家族歴および既往歴 : 特記事項なし.

現病歴 : 約10年前より右側頬粘膜部の腫瘤を自覚するも放置していた. 2年程前から腫瘤の増大傾向を認め, 下顎義歯の装着が徐々に困難となったため, 某歯科医院を受診し当科を紹介され来院した.

現症

全身所見 : 特記事項なし.

局所所見 : ほぼ下顎咬合平面のレベルで右側口角より約5 mm 遠心部の頬粘膜に, 健康色粘膜で被覆された弾性軟, 可動性の腫瘤を認めた. 腫瘤は直径約20 mm の類球状で周囲組織との癒着はなかった(写真1). なお, 所属リンパ節に圧痛等の異常所見は認めなかった.

臨床検査所見 : 特記事項なし (表1).

臨床診断 : 脂肪腫

処置および経過 : 平成7年5月1日, 局所麻酔下で, 腫瘤基部の粘膜に半球状の切開を加え (写真2 ▲), 腫瘤 (写真2 a) を周囲組織と鈍的に剝離・摘出後, 腫瘤を被覆していた粘膜 (写真2 b) により一次閉鎖を行った. 写真3 は術後1ヶ月の所見である.

病理組織診断 : 脂肪腫



写真1

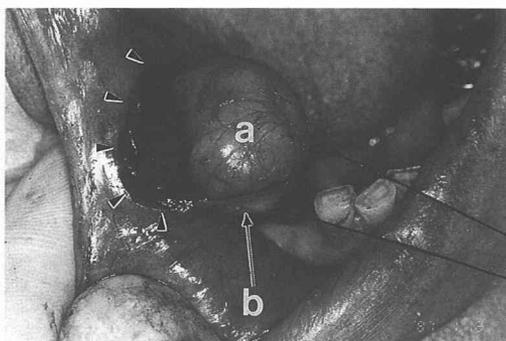


写真2



写真3

表 1：臨床検査成績

(血液一般)	
白血球数	$60 \times 10^2 / \mu\text{l}$
赤血球数	$542 \times 10^4 / \mu\text{l}$
血色素量	15.5 g/dl
ヘマトクリット値	49.0%
血小板数	$26.2 \times 10^4 / \mu\text{l}$
血沈値	5 mm/hr
白血球百分率	
Stab.	5%
Seg.	53%
Eosino.	2%
Baso.	1%
Mono.	5%
Lympho.	34%
(血液化学)	
TP	7.7 g/dl
ALB	4.6 g/dl
A/G	1.5
GOT	21 u/l
GPT	25 u/l
γ -GTP	33 IU/l
Creatinin	0.9 mg/dl
BUN	15 mg/dl